

早朝家庭血圧測定に基づくプレ心不全のリスク評価

和地 純佳

自治医科大学附属病院 循環器内科

【背景】 国際心不全ガイドラインでは心不全の発症予防とリスク層別化を目的として重症度をステージA～Dに分類している。高血圧は心不全のリスク因子の一つとされているが、早朝家庭血圧が心不全リスク層別化に有用であるという報告は少ない。そこで我々は家庭血圧測定の全国コホートJapan Morning Surge Home BP (J-HOP) 研究のデータセットを用いて心不全発症のリスク層別化に際し、家庭血圧の有用性に関する仮説を立てた。

【方法】 全国71施設で心血管疾患リスクを持つ外来患者4,310名を対象に14日間にわたり早朝と就寝前の家庭血圧測定を実施した。心血管疾患の既往がある患者やバイオマーカーのデータが不足している患者を除外し3,218人を解析の対象とし早朝家庭血圧と心不全ステージBの関連、およびステージBが将来の有症候性心不全リスクと関連しているかを検討した。

【結果】 多変量ロジスティックモデルでは、早朝家庭収縮期血圧の上昇はHFのステージBのリスクと有意に関連していることがわかった。また中央値6年間の追跡期間で19の心不全イベントを発症した。多変量Coxモデルでは心不全ステージBの患者はステージAの患者と比較し有意な将来の心不全発症リスクであった（調整HR 3.76; 95% CI 1.40-10.06）。

【結論】 早朝家庭血圧は診察室血圧と比較し心不全発症リスクの層別化に有用である可能性が示唆された。今後は介入研究などによるさらなるエビデンスの集積が必要である。